

自己決定理論に基づいた学生の主体的で協働的な
改善意識変容プロセスの分析
Analysis of Transformation Process of Student' s
Independent and Cooperative Improvement Consciousness
Based on Self-Determination Theory

佐藤彩芽(東京海洋大学)
水谷史門(東京海洋大学大学院)
佐々木剛(東京海洋大学学術研究院)

【要約】

現在、地域社会における水圏環境リテラシーの普及と同時に、水圏環境と人間社会とが共生に向かうよう主体間の連携や協働を促す人材の育成が求められている。本研究は、岩手県閉伊川流域で行われている水圏環境コミュニケーション学実習参加学生の主体的で協働的な改善意識の変容プロセスを明らかにすることを目的とした。記述内容を分析した結果、参加学生に自己決定理論における「関係性」「有能感」の高まりによる「自律性」が芽生えたことが分かった。また、流域住民とのコミュニケーションを通して、他者との結びつきをつくり、協力したいというさらなる「関係性」の高まりがみられた。これは主体的で協働的な改善意識が高まっていることを示すものと考えられた。

【キーワード】

水圏環境教育、水圏環境リテラシー、キー・コンピテンシー、主体的で協働的な改善意識、自己決定理論

<http://www.jamee.info/file/jameer/2019/jameer120114.pdf>

(本文を開くにはパスワードが必要です。) →日本水圏環境教育研究会

(hypomesus@gmail.com) にご連絡ください。